

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



### 社会福祉法人 小羊学園

〒431-1304

静岡県浜松市北区細江町中川7440-1

電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849

E-mail kohituji@imix.or.jp

H.P http://www.imix.or.jp/kohituji/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2007年 8 月 20 日

第 295 号

## 小羊デイケアホームが

### 二十年目を迎えて

—小羊学園らしい通所事業とは—

山崎 陽司

のゆっくりしたペースが大切であったのでしようか。いずれにしろ全国的な流れから見てもその方向性は間違いではなく、二十年前に新しい通所事業として形に示すことが出来たことの役割は大きかったと思います。

この度、改めて「小羊学園らしい通所事業とは」というテーマで考えて見ますと、特に通所事業というのではないのでしようが、小羊学園らしきとは、私たちと出会った利用者本人やご家族の困難に精一杯関わり、可能な限り見捨てないことだと思っています。社会福祉施設にも社会的経営手腕が求められる時代です。財政が困窮する中、利用者や働く職員を守るために重要なこととありますが、より高い収益を得ることが優先され、利用者やご家族への配慮が希薄になるようなことがあってはいけません。

小羊デイケアホームが創設される十一年前に、養護学校教育の義務化が始まり、重度の障害のある人たちも学校教育を受けられるようになりました。しかしながら義務教育には期限があり、その先の受け入れ先が整わないまま卒業を迎える人たちがいたのです。作業能力の高い人たちは就労という形で進路を選択できるのですが、ほとんどの人たちは通所施設や当時急速に整備された小規模授産所へ通うことになりました。養護学校が重度の障害のある人た

ちを受け入れてきたということは、当然その結果、卒業してから授産所等においても能力的についていけない人たちが現れてくるのです。その人たちは卒業後の進路として入所施設への入所を希望するようになりました。ところが入所施設の定員にも限界があり、結局どこにも行き場のない人たちが出てきてしまったのです。

このような現実に対して、私たちは「何とかしなければ」という強い思いの中で、誰でも安心して通うことの出来る施設を作ることに努力し、その結果、生活訓練ホーム「小羊デイケアホーム」が誕生したのです。

制度としても十分に整わない中、物的にも恵まれていませんでしたが、通ってくる利用者たちのために一生懸命でした。そんな私たちをご家族はじめ地域の方々やキリスト教会関係の方が大勢応援してくださいました。行政の方々も施設の運営が安定するように努力を重ねてくださいました。振り返ると、自分たちが何かをやってきたというよりは、皆さんに後押しをされて利用者と共に歩んできたというのが実感です。まさにこれが「小羊学園らしさ」なのではないでしょうか。

これまでに会った多くの利用者とそのご家族、共に労苦した職員、応援してくださいました皆さんの方々に改めて感謝申し上げます。



# 「小羊デイケア ホーム」 の事業展開

## 二十年を振り返って

岩島 サチ子



二十年前、小羊デイケアホームが開所した頃は、設備らしいものは何もなく、「これからの様なことをしていけばよいのだろう」そんな思いを抱きながらも一からの出発にスタッフ一同が希望に満ちていました。

そんな中、メインになる活動として考えたのが、クッキーを作って販売しようという取り組みでした。今でこそ料理教室が開けるほどの設備が整っていますが、当時は何もありませんから、器具等は職員の家庭から持ち寄って作っていました。そして、一番大事に考えていたのが、どんなに障害が重くても利用者さん全員が参加すること、少々時間がかかっても一人一人が参加する場面を持つとういうように、作る過程を大事にできました。クッキー作りを通して、出来ないだろうと思っていたことが出来たときの喜び、それが本



人の自信に繋がるなど得ることも沢山ありました。この取り組みは現在も続いています。

以前は社会参加にも重きを置いていました。お隣の十字の園で、おしぼりやタオル畳みをさせて頂いたり、聖隷三方原病院栄養課で二名がゼリー詰めのお仕事をさせて頂きました。この時は、スタッフが付いていれば難なくできる作業も、居なければスムーズに出来ないという難しさを感じたこともありました。

また、いつも笑顔だったT君が、自宅で突然亡くなったことは悲しい出来事でした。

一方、新築のデイケアホームに引

越したときは、それ程動揺を見せなかった利用者さん達が、マルカートに移った人達と別れ、そして新しく迎えたときの戸惑いは大きかったようです。

最近では、それぞれの家庭から通ってくるこの大切さを実感しています。その為に、それぞれの目標を元に充実した日々をすごしてもらるように、がんばろうと思っています。



## マルカートへ移った仲間たち

山崎 汐美



小羊デイケアホームが軌道に乗り始めた頃より、浜松市南部から通って来る方たちに、もっと近くに同じ様な通所施設を作りたいという多くの願いがありました。小羊デイケアホームが十七年目を迎えた年にその願いが叶い、浜松市南区江之島町「アンサンブル江之島」の中に小羊学園の「マルカート」が作られました。その時、南部から小羊デイケアホームに通所していた七名の方々が希望してマルカートに移りました。そして、新たにマルカートに通う様になった九名の方々と共に新しい

生活が始まりました。私としては、今回は小羊デイケアホームを立ち上げた時以上にとても不安が多かったのを覚えています。小羊デイケアホームは、通所される方が少人数から始まり、何年も掛けて少しずつ増えていき、互いに生活に慣れていく事が出来たのに対し、マルカートの場合は初めから十六名の方が顔を合わせる事になりました。移動した皆さんは、新しい場面や新しい人に慣れるのに時間が掛かり、新しい事に苦手意識をもつ方々です。新しい環境の中で新しい仲間と溶け込んでいけるのか、とても不安の多い立ち上がりでした。ところが、私の不安は予想外で、彼らは初めからマルカートに戸惑いもみせず、先頭をきって新しい場所、仲間、食事、日課、外出、旅行とスムーズに受け入れ、楽しい生活が始まりました。考えてみれば、小羊デイケアホームでの生活経験があったからこそ今の生活があるという事を実感しました。あれから三年目を迎えました。今年、もう一名の方が移動し、計八名の仲間が移ってきました。マルカートがある江之島町は、中田島砂丘に近く、いつでも海を間近に感じる事が出来る素晴らしい場所です。環境にも恵まれています。今日もそんな大きな海や大地に包まれて、自然を体中に感じながらマルカートの仲間たちは、みんな楽しく頑張っています。

## 新しい仲間

稲松 佳通代



デイケアホームがデイサービスに移行した二年前の四月、在宅の人、他の作業所に通っていた人、養護学校高等部を卒業した人、七名が新しく通い始めました。その後四名が加わり、今は、二十一名の利用者が通っています。以前から、個性豊かな人たちが多かったようですが、新しく通い始めた人たちも負けず劣らず個性的で、日々新しい発見あり、感動あり、反省ありで、賑やかに過ごしています。この四月からは、支援者二名が変わり、経験の浅い体制になりましたが、何よりも利用者たちが自分らしく輝いて、楽しんで笑



顔で通える、そんな場を提供したいと奮闘中です。ある日の一場面をご紹介します。室内での活動として続けているクッキー作りをのぞいてみると、粉ふるいや、ハンドミキサーで生地混ぜをやりたい人たちばかりで、順番待ちでした。「上手にできた？」と仕事ぶりを確認するMさん。他の作業所から移ってきたMさんは、手先がとても器用です。「ありがたう、上手にできたね。大助かりだったよ。」の声かけにご満悦。大好きな活動のようです。散歩に出かけたグループの中のYさんは、通い始めの頃は、車椅子を使っていました。歩くことに意欲が持てたらと、あれこれやりとりを続ける中で、一年ほどかけて歩く距離を増やすことができ、今では足取りもしっかりと調子よく歩けるようになりました。みんなと一緒に：ということが功を奏したようです。この日もけらけら笑い声を上げながら、颯爽と歩いていましたよ。

一人ひとりが持っている可能性は、仲間がいることが大きな力になり、高めあうことができるようだと感じています。新しい人が入ってくるたびに落ち着かない表情を見せる先輩たちを尻目に、マイペースで、まだ本領発揮というところまでいかない新人さんとも関わりを通して、パワーアップすることを期待しています。

## 「デイケアホームの仕事を通して」

出水 巖生



現在、小羊デイケアホームは障害者自立支援法に基づく生活介護事業所として二十一名の利用者の方々が契約をされ、一日に約二十名の方が通って来られています。小羊学園は特に重い障害を持った方を中心に始められた仕事ですが、昔から日中活動の提供は大切に考えられてきました。当初は「重度障害児(者)生活訓練ホーム」という事業でしたが、その後の制度の変化と地域のニーズに併せて「デイサービスセンター」、そして現在の「生活介護事業所」と事業移行してきました。以前に比べると法人内に通所施設も増え、生活訓練ホームの時に比べると、利用者のタイプも幅広く、多様化してきているように感じます。それに伴い職員も、こういった状況と様々なタイプの利用者に対応できる技量と、柔軟性も必要とされてきています。

通所施設という施設機能を考えると、利用者の一日の生活の中で、日中の過ごし方をいかに充実できるかという意味では、施設の担う役割はとても大きなものであると感じます。重い障害を持った方へ提供する活動の意味を捉える事はとても難しい事でもあります、



何よりこの仕事をしていての喜びはその利用者の笑顔にあると思います。もちろん社会や地域の中に存在する施設やその一員として、配慮される事や社会性や規律性を求める事も大切ですが、一番根底にあるべきはどんな障害があつたとしても、その人らしさが発揮され認められる事ではないかと思えます。自分の通うべき場所があり、その人の行なえる事柄があり、それを傍で励ましてくれる人がいて、そして出来た事を共に喜んでくれる仲間がいることが大切です。私達の仕事は利用者との深い関係性の中で、相手の事を理解し思いやり、お互いが共に感じ合い分かち合い共有できる、そんな関係性の中でこれからも利用者が充実感を感じる事ができ、その人の生きがいが高められたいと思います。

個人情報保護に対する基本方針

社会福祉法人小羊学園（以下、「法人」という）は、利用者等の個人情報を適切に取り扱います。

当法人は、保有する利用者等の個人情報及び関係法令、厚生労働省ガイドライン（以下「関係法令等」という）を遵守し、自主的なルール及び体制を確立し、適正かつ適切な取り扱いに努力します。

記

二、個人情報の安全性確保の措置

①当法人は、個人情報保護の取り組みを全役職員等に周知徹底させるために、個人情報保護に関する規程類を整備し、必要な教育を継続的に行ないます。

②個人情報への不正アクセス、個人情報の漏洩、滅失、又は毀損の予防及び是正のため、当法人内において規程を整備し安全対策に努めます。

三、個人情報の開示・訂正・更新・利用停止・削除等への対応

当法人は、本人が自己の個人情報について、開示・訂正・更新・利用停止・削除等の申し出がある場合には、速やかに対応します。これら希望される場合には、個人情報相談窓口（電話〇五三―四二〇―〇八三〇）までお問い合わせください。

四、苦情の処理

当法人は、個人情報取り扱いに関する苦情に対し、適切かつ迅速な処理に努めます。

二〇〇七年八月一日

社会福祉法人 小羊学園

理事長 稲松 義人



① 個人情報の取得に当たり、利用目的を明示した上で、必要な範囲の情報を取得し、利用目的を通知又は公表し、その範囲内で利用します。  
② 個人情報の取得・利用・第三者提供に当たり、本人又はご家族の同意を得ることとします。  
③ 当法人は、業務の委託に当たり、関係法令等の趣旨を理解し、それに添った対応を行なう事業者を選定し、かつ個人情報保護に関する契約を締結した上で情報提供し、適切な監督をします。

支える会だより

小羊学園のホームページをリニューアル

担当者不在のまま長らく更新されないままになっていました小羊学園のホームページを、このたび何とかリニューアルすることができました。一部未完成の部分もありますが、有効に活用していきたいと思えます。よろしければ是非一度ご覧ください。つのおぶえ紙も、今後はホームページでもご覧いただけるようになります。

URLは、(http://www.kohitsuji.or.jp) です。

2007 年度小羊学園を支える会寄付金報告

8月分は次号に掲載いたします。

小羊学園改築計画にご協力ください

(口座名義)「小羊学園を支える会」

郵便振替口座 〇〇890-4-45415  
りそな銀行浜松支店 (普通) 040005  
静岡銀行細江支店 (普通) 043483

つばさ静岡・看護師募集

静岡市にある重症心身障害児施設「つばさ静岡」では、引き続きの看護師を募集しています。心身に重い障がいがあり、医療的な介護を欠くことのできない人たちのための入所施設です。彼らの命の輝きに出会うとき、きっと新しい何かに気づくことができると思えます。私たちと一緒に働いてみませんか。どなたかお心当たりのある方も一報くださると嬉しいですよ。

連絡先 つばさ静岡

(静岡市葵区城北一七)

電話(〇五四)二四九―八三〇

担当：羽山(事務長)

編集後記

障がいのある子どもたちが養護学校の卒業後、毎日どこに通うかは大問題です。小羊デイケアホームは、そのために小羊学園が取り組んだ最初の施設です。就労するか、仕事として作業に取り組むことができない人たちにとって、どのような日中活動がよいのか、ずっと考えさせられてきました。それは、定年後の私たちが、充実した毎日を送るための課題と重なる部分がありそうです。

残暑も少し和らぎましたでしょうか。夏の疲れがでませんように、ご健康をお祈りいたします。(I)